

医療最前線

# 多職種からなる摂食嚥下チームとは 摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割



摂食・嚥下障害看護認定看護師 折出仁美

摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割は大きく二つあります。一つは「摂食・嚥下機能の評価および誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水の予防」、もう一つは「適切かつ安全な摂食・嚥下訓練の選択および実施」とされています。

この二つの役割から、私自身の役割は「患者さんの食べることを支えること」であると考えています。口から食べるということは、単に栄養の補給や水分の補給を行うことだけにとどまらず、生きる喜びや楽しみにつながる行為であり、それを支えていきたいと思っています。

摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割は大きく二つあります。一つは「摂食・嚥下機能の評価および誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水の予防」、もう一つは「適切かつ安全な摂食・嚥下訓練の選択および実施」とされています。

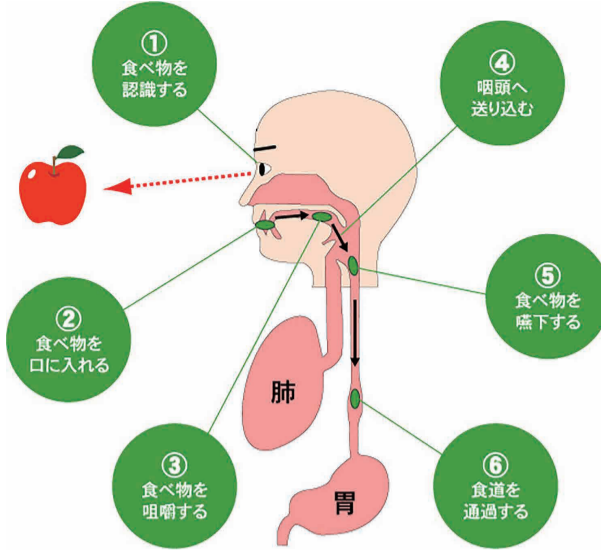
■摂食嚥下障害とは  
日常生活の中で「摂食嚥下(せつしよくえんげ)」という言葉を聞くことはあまりないと思います。大ざっぱに言えば、「摂食」は食べることを、「嚥下」は飲み込むことを指していますが、「摂食嚥下」という言葉を看護師の視点から説明すると、「食物を認識して口に運び、口の中でそれを噛み砕き、唾液と混ぜて飲み込みやすい形にし、飲み込むまでの一連の行為」となります。

摂食・嚥下障害の原因としては、脳血管疾患(脳梗塞や脳出血)、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経筋疾患、認知症などが挙げられます。また、先天性(生まれつき)の疾患の場合もあ

摂食嚥下障害の原因としては、脳血管疾患(脳梗塞や脳出血)、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経筋疾患、認知症などが挙げられます。また、先天性(生まれつき)の疾患の場合もあ

摂食・嚥下障害の原因としては、脳血管疾患(脳梗塞や脳出血)、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経筋疾患、認知症などが挙げられます。また、先天性(生まれつき)の疾患の場合もあ

【図1】摂食嚥下の流れ



【表1】摂食嚥下チームの主なメンバーと役割

職種	主な役割
医師	全身の管理、リスク管理、検査、訓練の指示、目標・治療の方針の最終決定、病状や治療方針の説明と同意
言語聴覚士	口腔機能の基礎訓練、摂食訓練、構音訓練、高次脳機能障害の評価と治療
理学療法士	頸部(首)や体幹の訓練、体力アップ、一般的な運動療法など
作業療法士	姿勢の調整、上肢(腕や手)の訓練と使い方、食器の工夫、自助具(使いやすいスプーンなど)の選択
看護師	バイタルサイン(熱や血圧など)、症状観察、吸引など呼吸管理、薬・点滴の投与、口腔ケア、食事介助、摂食嚥下訓練、精神的サポート、家族指導など
看護助手	口腔ケア、食事介助
介護者(家族)	口腔ケア、食事介助、精神的サポート
管理栄養士	嚥下食の提供、エネルギー・水分などの栄養管理、嚥下食の作り方指導や紹介
薬剤師	嚥下しやすい薬剤の調整、薬効の説明
歯科医師	う歯(虫歯)、歯周病などの口腔の疾患、義歯の調整
歯科衛生士	口腔ケア、口腔衛生管理
放射線技師	嚥下造影検査
ソーシャルワーカー	環境の調整、関係調整、社会資源の紹介

参考: 嚥下障害ポケットマニュアル 第4版